

科目名	公共の哲学
担当者	佐藤 正志
配当学期	春学期
単位	2単位
授業概要	<p>「公共」の意味は、今日様々な視座から考察されているが、本講義では、政治学の根源に立ち返りながら、政治哲学、政治思想からのアプローチで「公共の哲学」を探求する。</p> <p>「公共性」の概念の系譜学的展開を柱として講義を進める。まず古代ギリシアにおける「公共性」の発見から出発し、ついで近代国家と市民社会における「公共性」の転換を追い、最後に現代政治理論の課題としての「公共性」を提示する。</p>
授業の到達目標	現代社会における「公共」の意味について、自らの実践的課題と結びつけて考察するための基本概念を獲得することを目標とする
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1)「公共性」への問い (2)polis, politics and the public sphere (3)res publica と共和主義の伝統 (4)公共性の古典的理念と現代 (5)主権国家と公共性 (6)国家に抗する市民社会 (7)市民的公共性の理念 (8)啓蒙主義と公共的理性 (9)世論と議会制デモクラシー (10)市民的公共性の構造展開 (11)正議論と自由主義の再検討 (12)リベラル-コミュニタリアン論争 (13)共和主義の復権と公共哲学 (14)政治における多元性と公共性 (15)総括
教科書	特定の教科書は使用せず、講義の中で参照すべき文献を紹介する。
参考文献	佐藤正志『政治思想のパラダイム』（新評論、1996年）、飯島昇藏・佐藤正志・太田義器編『現代政治理論』（ブレイン出版、2009年）ほか
成績評価方法	最後に提出するレポートを基本として、課題に関する報告等、講義への積極的参加、議論への貢献等を加味して評価する。
関連 URL	http://www.f.waseda.jp/ssato/
備考	講義の中に、「公共性」概念の系譜を考えるために重要な古典的テキストや「公共性」の現代的復権に重要な寄与をなしてきた現代の理論家の著作についての受講者の報告もとりいれ、それをめぐる議論や、受講者それぞれが自らの実践的課題から「公共性」について考えてきたことについての意見の交換など、講義の一定時間を議論にあてたい。